

# 野村世界高格付債券投信 (年2回決算型)

## 償還運用報告書(全体版)

第26期 (償還日2021年11月18日)

作成対象期間 (2021年5月19日～2021年11月18日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたび、約款の規定にもとづき償還決算を行ない、償還価額が決定いたしました。  
ここに設定日から償還までの運用経過をご報告いたしますとともに、ご愛顧に対し  
厚く御礼申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/債券	
信託期間	2021年11月18日をもちまして繰上償還いたします。(設定日2008年12月19日)	
運用方針	野村世界高格付債券投信マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主として世界各国の信用力の高い債券に投資し、安定した利子収益の確保に加え、中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行なうことを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。	
主な投資対象	野村世界高格付債券投信 (年2回決算型)	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、債券に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	世界各国の信用力の高い債券を主要投資対象とします。
主な投資制限	野村世界高格付債券投信 (年2回決算型)	外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益は売買益等から、利子・配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

## 野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104  
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			ベンチマーク FTSE世界国債インデックス (含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 配 分	み 金 騰 落	期 騰 落	中 率			
	円 銭	円	%		%	%	%	百万円
22期(2019年11月18日)	14,673	10	3.0	146.92	2.5	92.8	△56.8	160
23期(2020年5月18日)	13,917	10	△5.1	148.47	1.1	88.3	△36.0	150
24期(2020年11月18日)	14,698	10	5.7	152.55	2.7	80.0	△8.8	159
25期(2021年5月18日)	15,207	10	3.5	155.75	2.1	74.4	21.7	165
(償還時)	(償還価額)							
26期(2021年11月18日)	15,173.74	—	△0.2	158.63	1.8	—	—	161

\*基準価額の騰落率は分配金込み。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\*FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックス（為替ヘッジを行わない円ベースの指数）です。円換算には、原則として国内投資信託の基準価額算出に使用する為替レートを\_using\_しています。なお、設定時を100として指数化しています。

\*FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

(出所) FTSE Fixed Income LLC

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額		ベンチマーク FTSE世界国債インデックス (含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率				
(期首)	円 銭	%		%	%	%
2021年5月18日	15,207	—	155.75	—	74.4	21.7
5月末	15,335	0.8	157.41	1.1	74.5	22.8
6月末	15,134	△0.5	157.27	1.0	79.0	△43.5
7月末	15,142	△0.4	158.35	1.7	85.0	△100.5
8月末	15,105	△0.7	158.29	1.6	84.7	△100.2
9月末	15,031	△1.2	157.28	1.0	88.4	△107.3
10月末	15,251	0.3	160.04	2.8	92.8	△116.6
(償還時)	(償還価額)					
2021年11月18日	15,173.74	△0.2	158.63	1.8	—	—

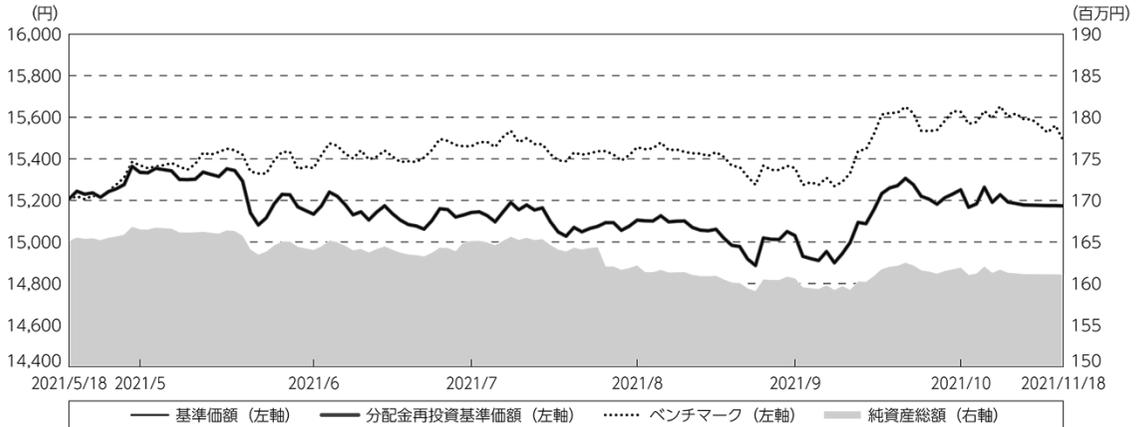
\*騰落率は期首比です。

\*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



期 首： 15,207円

期末(償還日)：15,173円74銭(既払分配金(税込み)：-円)

騰 落 率：  $\triangle 0.2\%$  (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2021年5月18日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用)です。ベンチマークは、作成期首(2021年5月18日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首15,207円から償還時には15,173.74円となり、33.26円の値下がりとなりました。

- (上昇) 債券の利息収入を得られたこと。
- (上昇) 為替市場における米ドルの円に対する上昇(円安)。
- (下落) 為替市場におけるユーロの円に対する下落(円高)。

## ○投資環境

### 債券市場<債券利回りは米国、欧州で低下、日本ではほぼ変わらず>

米国市場では、新型コロナウイルス感染拡大の経済への悪影響が市場の一部で意識される局面では長期債利回りは低下（価格は上昇）しました。しかしながら、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融緩和縮小への期待などから、短中期債を中心に債券利回りは上昇（価格は下落）に転じました。期末には、期首と比較して、長期債利回りについては低下、中期債利回りについては上昇となりました。

欧州では、インフレ率の高止まりなどからドイツ国債の利回りが上昇する局面があったものの、ECB（欧州中央銀行）高官の緩和的な金融政策を継続する発言などから、期を通じては、ドイツ国債の利回りは低下しました。

日本では、日銀の緩和的な金融政策のもとで、日本国債利回りは期を通じて小幅な変動にとどまりました。

### 為替市場<米ドルは円に対して上昇、ユーロは円に対して下落>

米国経済の好調な推移を受けたFRBの金融緩和縮小観測などから、米ドルは円に対して上昇しました。

ユーロ圏の景気の減速懸念やECBの金融緩和長期化観測などから、ユーロは円に対して下落しました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

### [野村世界高格付債券投信（年2回決算型）]

2021年10月までは、野村世界高格付債券投信マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、組入比率を高位に維持しました。11月については、当ファンドの繰り上げ償還の決定を受けた対応として、受益証券の全売却を行なった結果、償還時の受益証券組み入れ比率は0%となりました。

### [野村世界高格付債券投信マザーファンド]

#### <ファンド・デュレーション<sup>(※1)</sup>>

ファンド全体のデュレーションは、10月末時点で期首と同程度としました。10月末時点で、ファンド全体のデュレーションはベンチマークに対して短期化としました。

(※1) デュレーションは、債券の利回り変化に対する価格変化の感応度を表し、数値が大きいほど利回り低下時の価格上昇率が大きくなり、利回り上昇時には価格下落率が大きくなります。

#### <為替のエクスポージャー<sup>(※2)</sup>>

10月末時点で、外貨エクスポージャーの内訳は、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を多め、米ドル、日本円の比率を少なめとしました。

(※2) 為替エクスポージャーとは、外国債券を中心とした外貨建資産に、為替予約等を含めた実質的な通貨配分の純資産額に対する比率のことです。比率が高い通貨が上昇した際には為替差益が、下落した際には為替差損が発生しやすくなります。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

基準価額の騰落率※は-0.2%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）の+1.8%を2.0ポイント下回りました。

※基準価額の騰落率は、分配金（税込み）込みで算出しております。

### （主なプラス要因）

グローバルに債券利回りが上昇する局面で、ベンチマークに対して大きめにデュレーションを短期化としていたこと。

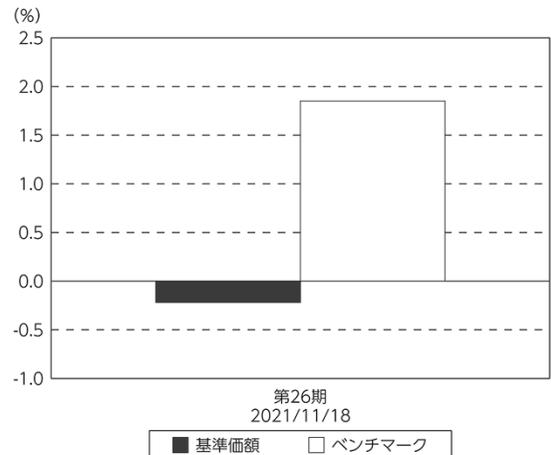
### （主なマイナス要因）

米ドルが上昇、欧州通貨が下落する局面で、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめ、欧州通貨の比率をベンチマークに比べ多めとしていたこと。

## ○分配金

償還のため分配は行ないませんでした。

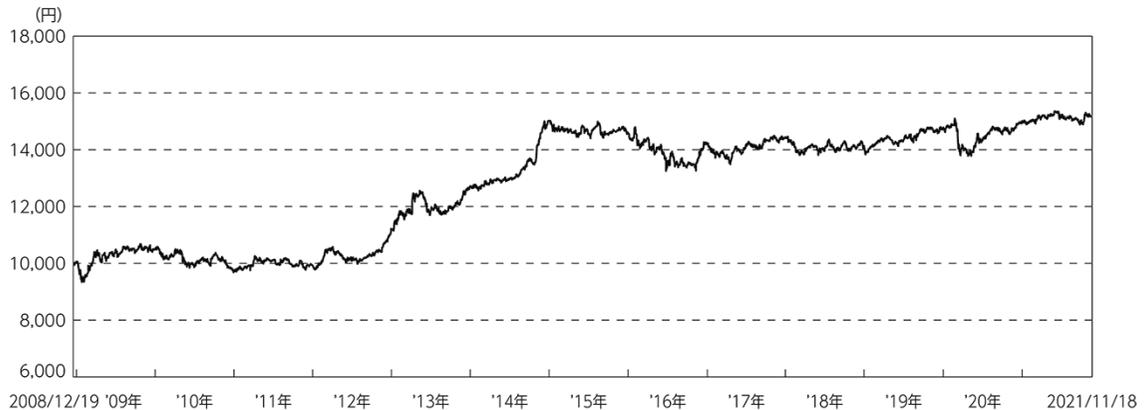
基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）です。

## ◎設定来の運用経過

＜設定来の基準価額の推移＞



### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、設定時の10,000円が償還時15,173.74円となりました。設定来お支払いした分配金は1万口当たり220円となりました。

#### 第1期（2008年12月19日～2009年5月18日）

（上昇）2009年2月以降、日本の急激な景気悪化が注目されるなどして円売りが進み、米ドルやユーロが対円で上昇したこと。

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）2009年に入ってから、政府の財政支出のための国債増発が懸念されるとともに、経済環境に対する悲観的な見方が後退したことで、債券利回りが上昇したこと。

#### 第2期（2009年5月19日～2009年11月18日）

（上昇）景気回復への期待が徐々に高まっていく中、日本の財政問題への懸念などから円売りが進み、ユーロが対円で上昇したこと。

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）米国の大規模な金融緩和や財政赤字などを背景に、米ドルが対円で下落したこと。

#### 第3期（2009年11月19日～2010年5月18日）

（上昇）米国の景気回復期待を背景に、米ドルが対円で上昇したこと。

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）欧州の財政問題を背景に、ユーロが対円で下落したこと。

**第4期（2010年5月19日～2010年11月18日）**

（上昇）米国の債券利回りの低下。

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）米国の追加金融緩和への期待を背景に、米ドルが対円で下落したこと。

**第5期（2010年11月19日～2011年5月18日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）米国と欧州の債券利回りの上昇。

**第6期（2011年5月19日～2011年11月18日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（上昇）米国と欧州の債券利回りの低下。

（下落）為替市場における米ドルとユーロの円に対する下落。

**第7期（2011年11月19日～2012年5月18日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（上昇）米国と欧州の債券利回りの低下。

（上昇）米ドルが対円で上昇したこと。

**第8期（2012年5月19日～2012年11月19日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（上昇）米ドルやユーロが対円で上昇したこと。

**第9期（2012年11月20日～2013年5月20日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（上昇）米ドルやユーロが対円で上昇したこと。

**第10期（2013年5月21日～2013年11月18日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（下落）米国と欧州の債券利回りの上昇。

**第11期（2013年11月19日～2014年5月19日）**

（上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。

（上昇）米国と欧州の債券利回りの低下。

（上昇）米ドルやユーロが対円で上昇したこと。

**第12期（2014年5月20日～2014年11月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）米国と欧州の債券利回りの低下。
- （上昇）米ドルやユーロが対円で上昇したこと。

**第13期（2014年11月19日～2015年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）先進国の債券利回りの低下。

**第14期（2015年5月19日～2015年11月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）ドイツや日本の債券利回りが低下したこと。
- （上昇）為替市場における米ドルの円に対する上昇。
- （下落）為替市場におけるユーロの円に対する下落。

**第15期（2015年11月19日～2016年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）各国の債券利回りが低下したこと。
- （下落）為替市場における米ドルやユーロの円に対する下落。

**第16期（2016年5月19日～2016年11月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （下落）米国の債券利回りが上昇したこと。
- （下落）為替市場におけるユーロの円に対する下落。

**第17期（2016年11月19日～2017年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）為替市場におけるユーロの円に対する上昇。
- （下落）ドイツの債券利回りが上昇したこと。

**第18期（2017年5月19日～2017年11月20日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）為替市場におけるユーロの円に対する上昇。

**第19期（2017年11月21日～2018年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （下落）為替市場における米ドルやユーロの円に対する下落。
- （下落）米国やドイツの債券利回りが上昇したこと。

**第20期（2018年5月19日～2018年11月19日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）ドイツの債券利回りが低下したこと。
- （下落）為替市場におけるユーロの円に対する下落。
- （下落）イタリアやスペインなどの欧州周縁国の債券利回りが上昇したこと。

**第21期（2018年11月20日～2019年5月20日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）債券利回りが低下したこと。
- （下落）為替市場における米ドルやユーロの円に対する下落。

**第22期（2019年5月21日～2019年11月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）債券利回りが低下したこと。
- （下落）為替市場における米ドルやユーロの円に対する下落。

**第23期（2019年11月19日～2020年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （下落）為替市場における米ドルやユーロの円に対する下落。
- （下落）欧州周縁国の債券利回りが上昇したこと。

**第24期（2020年5月19日～2020年11月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）為替市場におけるユーロの円に対する上昇。
- （下落）為替市場における米ドルの円に対する下落。

**第25期（2020年11月19日～2021年5月18日）**

- （上昇）期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）為替市場における米ドルやユーロの円に対する上昇。
- （下落）米国や欧州の債券利回りが上昇したこと。

**第26期（2021年5月19日～2021年11月18日）**

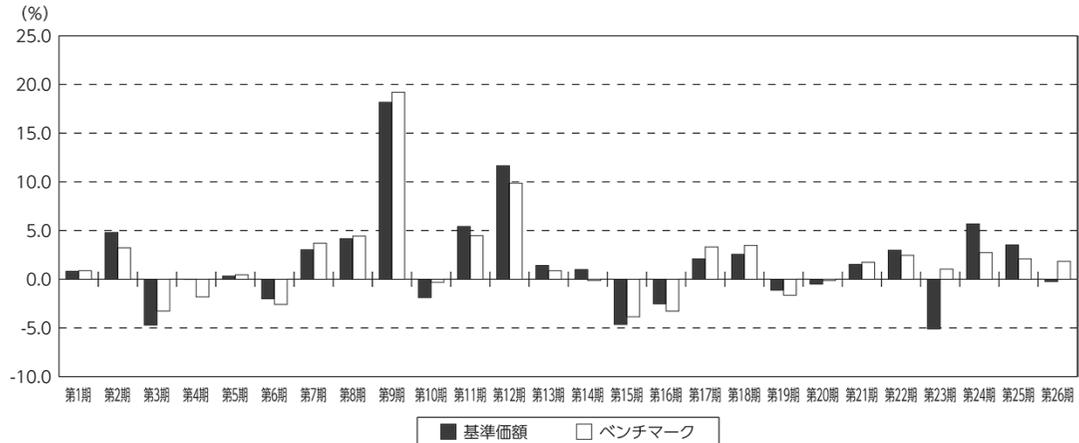
- （上昇）債券の利息収入を得られたこと。
- （上昇）為替市場における米ドルの円に対する上昇。
- （下落）為替市場におけるユーロの円に対する下落。

## ○ベンチマークとの差異

設定来では、ベンチマークが+58.6%となったのに対し、基準価額の騰落率※は+54.4%となりました。

※基準価額の騰落率は、分配金（税込み）込みで算出しております。

＜基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）＞



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）です。

### 【主な差異要因】

#### 第1期

##### (主なプラス要因)

2009年3月以降、ユーロや豪ドルが米ドルに対して上昇する局面で、ベンチマーク比での投資比率をユーロや豪ドルを多め、米ドルを少なめとしたこと。

##### (主なマイナス要因)

2009年2月に円安となる局面で、円のベンチマーク比での投資比率を多めとしたこと。

#### 第2期

##### (主なプラス要因)

ユーロや豪ドル、円が米ドルに対して上昇する局面で、ベンチマーク比での投資比率をユーロや豪ドル、円を多め、米ドルを少なめとしたこと。

##### (主なマイナス要因)

米国や欧州の債券利回りが上昇する局面で、ベンチマーク比でのデュレーションを長期化していたこと。

### 第3期

#### （主なプラス要因）

欧州の債券利回りが低下する局面で、ベンチマーク比でのデュレーションを長期化していたこと。

#### （主なマイナス要因）

ユーロが米ドルに対して下落する局面で、ベンチマーク比での投資比率を、ユーロを多め、米ドルを少なめとしたこと。

### 第4期

#### （主なプラス要因）

米国と欧州の債券利回りが低下する局面で、ベンチマーク比でのデュレーションを長期化していたこと。

### 第5期

#### （主なプラス要因）

2011年初以降に米ドルがユーロに対して下落する局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、米ドルを少なめ、ユーロを多めとしていたこと。

#### （主なマイナス要因）

欧州の債券利回りが上昇する局面で、ベンチマーク比での欧州債のデュレーションを長期化していたこと。

### 第6期

#### （主なプラス要因）

債券利回りが低下する局面で、ベンチマーク比でのデュレーションを長期化していたこと。

#### （主なマイナス要因）

米ドルがユーロに対して上昇する局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、米ドルを少なめ、ユーロを多めとしていたこと。

### 第7期

#### （主なプラス要因）

欧州の債券利回りが低下する局面で、ベンチマーク比での欧州圏のデュレーションを長期化していたこと。

#### （主なマイナス要因）

米ドルがユーロに対して上昇する局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、米ドルを少なめ、ユーロを多めとしていたこと。

### 第8期

#### （主なプラス要因）

相対的に利回りの高い中長期債をオーバーウェイトしていたこと。

**(主なマイナス要因)**

米ドルがユーロに対して上昇する局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、米ドルを少なめ、ユーロを多めとしていたこと。

**第9期**

**(主なプラス要因)**

欧州の債券利回りが低下する局面で、欧州のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

**(主なマイナス要因)**

米ドルがユーロなどに対して上昇する局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、米ドルを少なめ、ユーロなどを多めとしていたこと。

**第10期**

**(主なマイナス要因)**

米国や欧州の債券利回りが上昇する局面で、米国や欧州のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

**第11期**

**(主なプラス要因)**

米国や欧州の債券利回りが低下する局面で、米国や欧州のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

**第12期**

**(主なプラス要因)**

世界的に債券利回りが低下する局面で、ファンドのデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

円安米ドル高が進む局面で、ベンチマークに対して為替エクスポージャーを、円を少なめ、米ドルを多めとしていたこと。

**第13期**

**(主なプラス要因)**

債券利回りが低下する局面で、デュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。  
米ドルが欧州通貨などに対して上昇する局面で、ベンチマークに比べ円や欧州通貨、ドル圏周辺通貨などの比率を引き下げ、米ドルの比率を引き上げていたこと。

**第14期**

**(主なプラス要因)**

米ドルがドル圏周辺通貨などに対して上昇する局面で、ベンチマークに比べドル圏周辺通貨などの比率を引き下げ、米ドルの比率を引き上げていたこと。

**（主なマイナス要因）**

欧州の債券利回りが上昇する局面で、欧州債券のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

**第15期**

**（主なプラス要因）**

円が米ドルに対して上昇する中で、ベンチマークに対して円の比率を引き上げていたこと。

**（主なマイナス要因）**

各国の債券利回りが低下した環境下で、デュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

ユーロが米ドルに対して上昇する中で、ベンチマークに対してユーロの比率を引き下げ、米ドルの比率を引き上げていたこと。

**第16期**

**（主なプラス要因）**

米ドルが欧州通貨に対して上昇する局面で、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を引き下げ、米ドルの比率を引き上げていたこと。

米国の債券利回りが上昇する局面で、米国のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**第17期**

**（主なプラス要因）**

ドイツの債券利回りが上昇する局面で、ドイツのデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**（主なマイナス要因）**

欧州通貨が円や米ドルなどに対して上昇する局面で、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を引き下げ、米ドルや円の比率を引き上げていたこと。

**第18期**

**（主なプラス要因）**

米国の債券利回りが上昇する局面で、米国のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**（主なマイナス要因）**

欧州通貨が円や米ドルなどに対して上昇する局面で、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を引き下げ、米ドルや円の比率を引き上げていたこと。

**第19期**

**（主なプラス要因）**

米国やドイツの債券利回りが上昇する局面で、デュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**（主なマイナス要因）**

南アフリカランドが円や米ドルに対して上昇する局面で、ベンチマークに比べ南アフリカランドの比率を引き下げ、米ドルや円の比率を引き上げていたこと。

**第20期**

**（主なプラス要因）**

欧州通貨が円や米ドルなどに対して下落する局面で、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を引き下げ、米ドルや円の比率を引き上げていたこと。

**（主なマイナス要因）**

イタリアなどの欧州周縁国の利回りが上昇する局面で、ベンチマークに比べイタリアのデュレーションを長期化としていたこと。

**第21期**

**（主なプラス要因）**

ユーロが米ドルや円に対して下落する局面で、ベンチマークに比べユーロの比率を引き下げ、円や米ドルの比率を引き上げていたこと。

**（主なマイナス要因）**

米国やドイツの債券利回りが低下する局面で、デュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**第22期**

**（主なプラス要因）**

欧州周縁国の対ドイツ国債スプレッド（利回り格差）が縮小する局面で、欧州周縁国のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

**（主なマイナス要因）**

グローバルに債券利回りが低下する局面で、ファンド全体のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**第23期**

**（主なプラス要因）**

下落した英ポンドの比率をベンチマークに比べ少なめとしていたこと。

**（主なマイナス要因）**

グローバルに債券利回りが低下する局面で、ファンド全体のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

**第24期**

**（主なプラス要因）**

米ドルが下落、欧州通貨や円が上昇する局面で、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめ、欧州通貨や円の比率をベンチマークに比べ多めとしていたこと。

米国の債券利回りが上昇する局面で、米国のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

欧州周縁国の対ドイツ国債スプレッドが縮小する局面で、欧州周縁国のデュレーションをベンチマークに対して長期化していたこと。

## 第25期

### （主なプラス要因）

ユーロの比率をベンチマークに比べ多め、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめとしていたこと。

グローバルに債券利回りが上昇する局面で、ファンド全体のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

### （主なマイナス要因）

円の比率をベンチマークに比べ多め、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめとしていたこと。

## 第26期

### （主なプラス要因）

グローバルに債券利回りが上昇する局面で、ベンチマークに対して大きめにデュレーションを短期化としていたこと。

### （主なマイナス要因）

米ドルが上昇、欧州通貨が下落する局面で、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめ、欧州通貨の比率をベンチマークに比べ多めとしていたこと。

当ファンドは、2021年11月18日をもちまして繰上償還となりました。ご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

（2021年5月19日～2021年11月18日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	88	0.582	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(42)	(0.277)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(42)	(0.277)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 4 )	(0.028)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.014	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	( 2 )	(0.014)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.009	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 0 )	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 1 )	(0.004)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	91	0.605	
期中の平均基準価額は、15,166円です。			

\* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

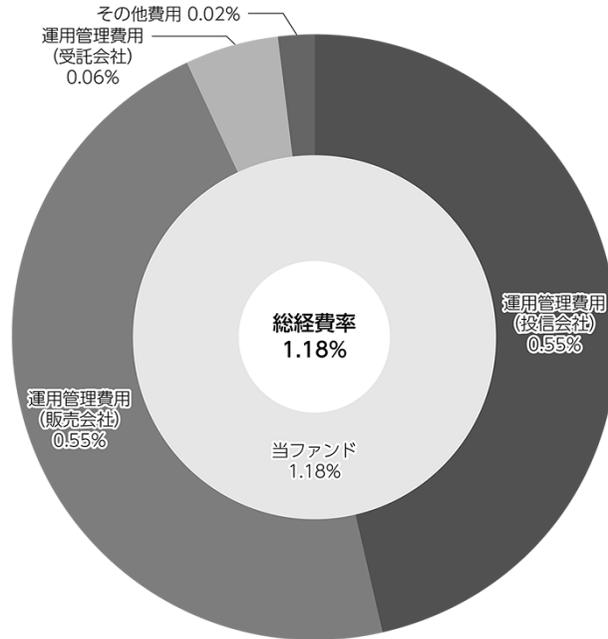
\* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\* 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

\* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

**（参考情報）****○総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.18%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2021年5月19日～2021年11月18日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
野村世界高格付債券投信マザーファンド	千口 563	千円 1,000	千口 93,159	千円 166,331

\*単位未満は切り捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2021年5月19日～2021年11月18日)

## 利害関係人との取引状況

<野村世界高格付債券投信（年2回決算型）>  
該当事項はございません。

&lt;野村世界高格付債券投信マザーファンド&gt;

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 676	百万円 90	% 13.3	百万円 875	百万円 107	% 12.2

平均保有割合 7.1%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村信託銀行です。

## ○自社による当ファンドの設定、解約状況

(2021年5月19日～2021年11月18日)

期首残高 (元 本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元 本)	取引の理由
百万円 100	百万円 -	百万円 100	百万円 -	当初設定時における取得とその処分

## ○組入資産の明細

(2021年11月18日現在)

2021年11月18日現在、有価証券等の組入れはございません。

## 親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
野村世界高格付債券投信マザーファンド			千口 92,596

\*単位未満は切り捨て。

## ○投資信託財産の構成

(2021年11月18日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 162,055	% 100.0
投資信託財産総額	162,055	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2021年11月18日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資産	162,055,313 円
コール・ローン等	162,055,313
(B) 負債	956,601
未払信託報酬	954,725
未払利息	141
その他未払費用	1,735
(C) 純資産総額(A-B)	161,098,712
元本	106,169,442
償還差益金	54,929,270
(D) 受益権総口数	106,169,442口
1万口当たり償還価額(C/D)	15,173円74銭

(注) 期首元本額は108,582,041円、期中追加設定元本額は650,544円、期中一部解約元本額は3,063,143円、1口当たり純資産額は1,517374円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額566,351円。(野村世界高格付債券投信マザーファンド)

## ○損益の状況

(2021年5月19日～2021年11月18日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 765
支払利息	△ 765
(B) 有価証券売買損益	600,169
売買益	632,172
売買損	△ 32,003
(C) 信託報酬等	△ 956,460
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 357,056
(E) 前期繰越損益金	48,131,113
(F) 追加信託差損益金	7,155,213
(配当等相当額)	( 8,397,473)
(売買損益相当額)	(△ 1,242,260)
償還差益金(D+E+F)	54,929,270

\*損益の状況の中で(C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2008年12月19日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2021年11月18日		資産総額	162,055,313円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	956,601円
受益権口数	100,000,000口	106,169,442口	6,169,442口	純資産総額	161,098,712円
元本額	100,000,000円	106,169,442円	6,169,442円	受益権口数	106,169,442口
				1万円当たり償還金	15,173円74銭

## 最近10年の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万円当たり分配金	
				金額	分配率
第6期	110,947,596円	109,548,582円	9,874円	0円	0.0%
第7期	110,800,075	112,611,855	10,164	10	0.1
第8期	110,305,025	116,683,575	10,578	10	0.1
第9期	110,070,450	137,492,315	12,491	10	0.1
第10期	118,690,526	145,357,557	12,247	10	0.1
第11期	121,751,775	157,075,192	12,901	10	0.1
第12期	122,624,424	176,523,282	14,395	10	0.1
第13期	123,097,286	179,593,279	14,590	10	0.1
第14期	123,530,708	181,908,382	14,726	10	0.1
第15期	124,233,685	174,357,884	14,035	10	0.1
第16期	123,892,451	169,382,297	13,672	10	0.1
第17期	123,812,043	172,705,019	13,949	10	0.1
第18期	117,422,625	167,889,581	14,298	10	0.1
第19期	116,664,210	164,850,430	14,130	10	0.1
第20期	109,492,365	153,861,192	14,052	10	0.1
第21期	109,528,302	156,153,275	14,257	10	0.1
第22期	109,553,411	160,752,531	14,673	10	0.1
第23期	107,901,126	150,169,541	13,917	10	0.1
第24期	108,539,568	159,527,039	14,698	10	0.1
第25期	108,582,041	165,125,754	15,207	10	0.1

## ○償還金のお知らせ

1万円当たり償還金（税込み）	15,173円74銭
----------------	------------

## ○お知らせ

該当事項はございません。

# 野村世界高格付債券投信 マザーファンド

## 運用報告書

第13期（決算日2021年11月18日）

作成対象期間（2020年11月19日～2021年11月18日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### ●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した利子収益の確保に加え、中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行なうことを基本とします。 ①債券への投資にあたっては、主として信用力の高い世界の主要国の国債等（国債、地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行いません。なお、主要国以外の国債等に投資する場合があります。 ②国別配分・通貨配分、デュレーションの水準等については、投資対象国・地域等のファンダメンタルズ分析や市場分析等に基づいて決定します。 ③通貨配分については、原則として為替予約取引等を用いて債券の国別配分とは独立した通貨配分を行いません。 ④ポートフォリオのデュレーションのコントロール等のために、債券先物取引等のデリバティブを活用する場合があります。
主な投資対象	世界各国の信用力の高い債券を主要投資対象とします。
主な投資制限	外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。 外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

**野村アセットマネジメント**

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク FTSE世界国債インデックス (含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用)		債組入比率	債券先物比率	純資産額
	円	騰落率	円	騰落率			
9期(2017年11月20日)	15,992	5.9	143.43	6.9	92.8	△ 25.2	627
10期(2018年11月19日)	15,919	△0.5	140.92	△1.7	88.0	△ 34.1	608
11期(2019年11月18日)	16,838	5.8	146.92	4.3	93.0	△ 56.9	637
12期(2020年11月18日)	17,087	1.5	152.55	3.8	80.2	△ 8.8	2,194
13期(2021年11月18日)	17,752	3.9	158.63	4.0	86.5	△114.9	1,614

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

\*FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックス（為替ヘッジを行わない円ベースの指数）です。円換算には、原則として国内投資信託の基準価額算出に使用する為替レートを使用しています。なお、設定時を100として指数化しています。

\*FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

(出所) FTSE Fixed Income LLC

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

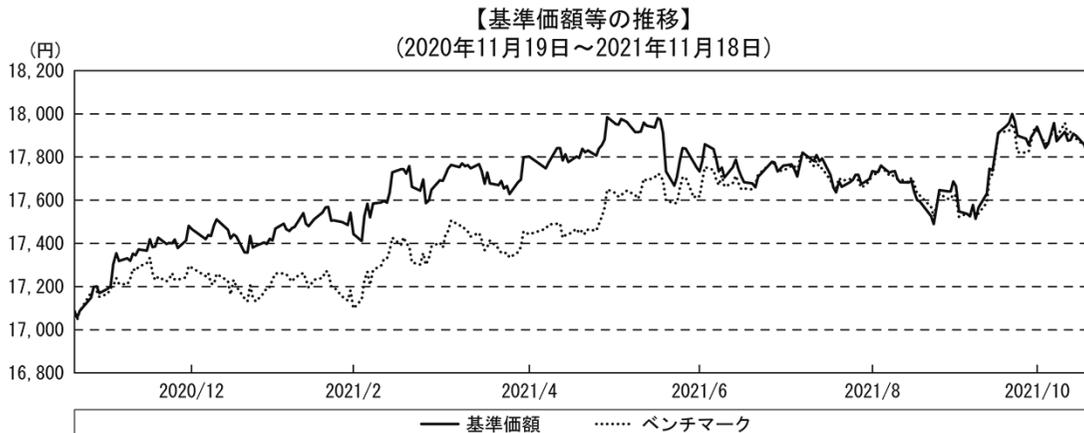
年月日	基準価額		ベンチマーク FTSE世界国債インデックス (含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用)		債組入比率	債券先物比率
	円	騰落率	円	騰落率		
(期首) 2020年11月18日	17,087	—	152.55	—	80.2	△ 8.8
11月末	17,189	0.6	153.25	0.5	82.3	△ 7.5
12月末	17,466	2.2	154.33	1.2	82.3	△ 8.7
2021年1月末	17,468	2.2	154.09	1.0	81.2	1.9
2月末	17,443	2.1	152.64	0.1	77.0	2.7
3月末	17,717	3.7	155.68	2.1	77.7	21.6
4月末	17,802	4.2	155.71	2.1	78.7	19.4
5月末	17,952	5.1	157.41	3.2	74.7	22.9
6月末	17,733	3.8	157.27	3.1	79.2	△ 43.6
7月末	17,760	3.9	158.35	3.8	85.2	△100.7
8月末	17,734	3.8	158.29	3.8	84.9	△100.4
9月末	17,664	3.4	157.28	3.1	88.6	△107.5
10月末	17,940	5.0	160.04	4.9	93.1	△116.9
(期末) 2021年11月18日	17,752	3.9	158.63	4.0	86.5	△114.9

\*騰落率は期首比です。

\*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）です。作成期首の値が基準価額と同一になるように計算しております。

### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首17,087円から期末には17,752円となり、665円の値上がりとなりました。

- (上昇) 期を通じて、安定的に債券の利息収入を得られたこと。
- (上昇) 為替市場における米ドルやユーロの円に対する上昇（円安）。
- (下落) グローバルな債券利回りの上昇（価格は下落）。

### ○当ファンドのポートフォリオ

#### <ファンド・デュレーション<sup>(※1)</sup>>

ファンド全体のデュレーションは期首から期末にかけ、短期化しました。期末において、ファンド全体のデュレーションはベンチマークに対して短期化としました。

(※1) デュレーションは、債券の利回り変化に対する価格変化の感応度を表し、数値が大きいほど利回り低下時の価格上昇率が大きくなり、利回り上昇時には価格下落率が大きくなります。

#### <為替のエクスポージャー<sup>(※2)</sup>>

期末において、外貨エクスポージャーの内訳は、ベンチマークに比べ欧州通貨の比率を多め、米ドル、日本円の比率を少なめとしました。

(※2) 為替エクスポージャーとは、外国債券を中心とした外貨資産に、為替予約等を含めた実質的な通貨配分の純資産額に対する比率のことです。比率が高い通貨が上昇した際には為替差益が、下落した際には為替差損が発生しやすくなります。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

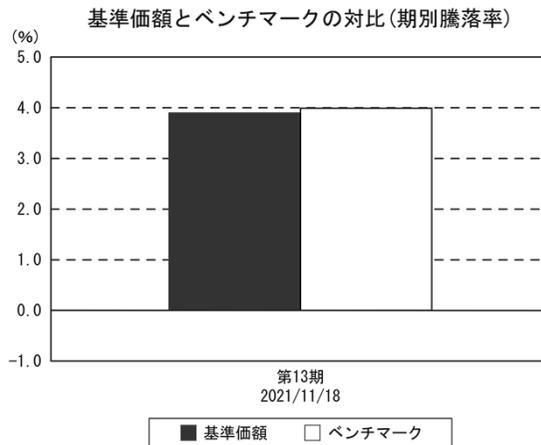
基準価額の騰落率は+3.9%となり、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）の+4.0%を0.1ポイント下回りました。

### （主なプラス要因）

グローバルに債券利回りが上昇する局面で、ファンド全体のデュレーションをベンチマークに対して短期化していたこと。

### （主なマイナス要因）

米ドルが上昇、欧州通貨が下落する局面で、米ドルの比率をベンチマークに比べ少なめ、欧州通貨をベンチマークに比べ多めとしていたこと。



（注）ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（含む日本、ヘッジなし・円ベース、国内投信用）です。

## ◎今後の運用方針

引き続き信託財産の成長を目標として積極的な運用を行ないます。債券への投資にあたっては、主として信用力の高い世界の主要国の国債等（国債、地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等）に投資を行ないます。国別配分・通貨配分、デュレーションの水準等については、投資対象国・地域等のファンダメンタルズ分析や市場分析等に基づいて決定します。

米国について、景気回復の継続やFRB（米連邦準備制度理事会）の金融緩和縮小に対する期待などから、債券利回りに上昇圧力がかかると予想します。欧州では、ECB（欧州中央銀行）が緩和的な金融政策を長期にわたって継続することで、債券利回りには低下（価格は上昇）圧力がかかると予想します。日本では、今後も金融緩和的な日銀の金融政策が債券相場を下支えすると見込んでおり、債券利回りは低水準で推移すると予想します。

ファンド全体のデュレーションはベンチマーク対比で、全体は短期化とし、地域別では米国を短め、欧州を長めとします。為替エクスポージャーは、欧州通貨の比率を引き上げ、米ドルや日本円の比率を引き下げる方針です。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年11月19日～2021年11月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (先物・オプション)	円 5 (5)	% 0.028 (0.028)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( そ の 他 )	4 (2) (2)	0.020 (0.010) (0.010)	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	9	0.048	
期中の平均基準価額は、17,655円です。			

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2020年11月19日～2021年11月18日)

## 公社債

		買 付 額		売 付 額	
国内	国債証券	千円		千円	
		1,060,618		1,186,760	
外	カナダ	地方債証券	千カナダドル	千カナダドル	1,026
	イギリス	国債証券	千英ポンド	千英ポンド	381
	ユーロ		千ユーロ	千ユーロ	
	ドイツ	国債証券	314	300	
	イタリア	国債証券	1,188	1,977	
	フランス	国債証券	1,977	728	
	スペイン	国債証券	137	419	
	ベルギー	国債証券	591	174	
	ポーランド	国債証券	千ズロチ	千ズロチ	8,916
	マレーシア	国債証券	千リンギ	千リンギ	4,023
国	オーストラリア	国債証券	千豪ドル	千豪ドル	196
	イスラエル	国債証券	千新シェケル	千新シェケル	2,934
	メキシコ	国債証券	千メキシコペソ	千メキシコペソ	11,026

\*金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

\*単位未満は切り捨て。

## 先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外国	債券先物取引	百万円	百万円	百万円	百万円
		7,406	8,968	10,164	10,094

\*単位未満は切り捨て。

\*外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2020年11月19日～2021年11月18日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	%		百万円	%
為替先物取引	15,167	—	—	15,156	46	0.3
為替直物取引	858	135	15.7	1,211	107	8.8

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村信託銀行です。

## ○組入資産の明細

(2021年11月18日現在)

## 国内公社債

## (A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちB B格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	220,000	236,568	14.7	—	14.7	—	—
合 計	220,000	236,568	14.7	—	14.7	—	—

\*組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

\*残存期間が1年以内の公社債は原則として償却原価法により評価しています。

## (B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	%	千円	千円	
国庫債券 利付(10年)第351回	0.1	10,000	10,105	2028/6/20
国庫債券 利付(10年)第364回	0.1	50,000	50,097	2031/9/20
国庫債券 利付(30年)第35回	2.0	40,000	51,619	2041/9/20
国庫債券 利付(30年)第64回	0.4	30,000	28,033	2049/9/20
国庫債券 利付(20年)第148回	1.5	40,000	46,397	2034/3/20
国庫債券 利付(20年)第175回	0.5	40,000	40,422	2040/12/20
国庫債券 利付(20年)第177回	0.4	10,000	9,892	2041/6/20
合 計		220,000	236,568	

\*額面・評価額の単位未満は切り捨て。

## 外国公社債

## (A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
カナダ	千カナダドル 600	千カナダドル 618	千円 55,987	% 3.5	% —	% 3.5	% —	% —
イギリス	千英ポンド 240	千英ポンド 313	48,336	3.0	—	3.0	—	—
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
ドイツ	540	861	111,447	6.9	—	6.9	—	—
イタリア	2,800	2,944	380,733	23.6	—	10.8	9.5	3.2
フランス	1,450	1,458	188,573	11.7	—	11.7	—	—
スペイン	1,170	1,362	176,209	10.9	—	6.9	3.2	0.8
ベルギー	390	408	52,758	3.3	—	3.3	—	—
国際機関	200	198	25,667	1.6	—	1.6	—	—
シンガポール	千シンガポールドル 100	千シンガポールドル 108	9,093	0.6	—	0.6	—	—
マレーシア	千リンギ 1,300	千リンギ 1,368	37,433	2.3	—	2.3	—	—
オーストラリア	千豪ドル 400	千豪ドル 391	32,440	2.0	—	—	2.0	—
イスラエル	千新シェケル 200	千新シェケル 198	7,365	0.5	—	0.5	—	—
メキシコ	千メキシコペソ 6,000	千メキシコペソ 6,129	33,855	2.1	—	0.3	1.8	—
合 計	—	—	1,159,899	71.8	—	51.3	16.5	4.0

\* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

\* 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

\* 金額の単位未満は切り捨て。

\* 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄			当期					償還年月日
			利率	額面金額	評価額		千円	
					外貨建金額	邦貨換算金額		
カナダ			%	千カナダドル	千カナダドル			
	地方債証券	ONTARIO (PROVINCE OF)	2.7	300	313	28,341	2029/6/2	
		PROVINCE OF QUEBEC	2.3	300	305	27,645	2029/9/1	
小	計					55,987		
イギリス				千英ポンド	千英ポンド			
	国債証券	UK TREASURY	1.75	100	108	16,695	2037/9/7	
		UK TREASURY	3.5	140	205	31,640	2045/1/22	
小	計					48,336		
ユーロ				千ユーロ	千ユーロ			
ドイツ	国債証券	BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	3.25	260	442	57,213	2042/7/4	
		BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	2.5	160	260	33,670	2046/8/15	
		BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	1.25	120	159	20,562	2048/8/15	
イタリア	国債証券	BUONI POLIENNALI DEL TES	2.15	300	300	38,859	2021/12/15	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	0.95	100	101	13,166	2023/3/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	1.85	350	368	47,618	2024/5/15	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	1.5	500	527	68,197	2025/6/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	1.6	150	160	20,687	2026/6/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	7.25	100	134	17,446	2026/11/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	2.05	150	164	21,263	2027/8/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	1.35	200	209	27,135	2030/4/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	0.6	750	727	94,029	2031/8/1	
		BUONI POLIENNALI DEL TES	3.1	200	250	32,330	2040/3/1	
フランス	国債証券	FRANCE (GOVT OF)	0.5	450	472	61,053	2029/5/25	
		FRANCE (GOVT OF)	—	600	593	76,703	2031/11/25	
		FRANCE (GOVT OF)	0.75	400	393	50,816	2052/5/25	
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	0.35	100	101	13,140	2023/7/30	
		BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	1.6	270	288	37,322	2025/4/30	
		BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	2.15	100	109	14,214	2025/10/31	
		BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	5.15	450	608	78,613	2028/10/31	
		BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	0.5	250	254	32,918	2030/4/30	
ベルギー	国債証券	BELGIUM KINGDOM	—	300	297	38,438	2031/10/22	
		BELGIUM KINGDOM	1.7	90	110	14,319	2050/6/22	
国際機関	特殊債券 (除く金融債)	EUROFIMA	0.1	200	198	25,667	2030/5/20	
小	計					935,388		
シンガポール				千シンガポールドル	千シンガポールドル			
	国債証券	SINGAPORE GOVERNMENT	2.875	100	108	9,093	2029/7/1	
小	計					9,093		
マレーシア				千リンギ	千リンギ			
	国債証券	MALAYSIA GOVERNMENT	4.642	300	318	8,717	2033/11/7	
		MALAYSIAN GOVERNMENT	4.232	1,000	1,050	28,715	2031/6/30	
小	計					37,433		
オーストラリア				千豪ドル	千豪ドル			
	国債証券	AUSTRALIAN GOVERNMENT	0.25	400	391	32,440	2024/11/21	
小	計					32,440		

銘柄	当期				債還年月日
	利率	額面金額	評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
イスラエル	%	千新シエケル	千新シエケル	千円	
国債証券 ISRAEL FIXED BOND	1.0	200	198	7,365	2030/3/31
小計				7,365	
メキシコ		千メキシコペソ	千メキシコペソ		
国債証券 MEX BONOS DESARR FIX RT	8.0	5,000	5,119	28,277	2024/9/5
MEX BONOS DESARR FIX RT	7.5	1,000	1,009	5,577	2027/6/3
小計				33,855	
合計				1,159,899	

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

\*額面・評価額の単位未満は切り捨て。

### 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別	当期		期末
	買建額	売建額	
	百万円		百万円
外国債券先物取引	TNOTE (2YEAR)	—	776
	TNOTE (5YEAR)	—	41
	AU10YR	11	—
	BOBL	—	87
	BUNDS	—	22
	CANADA	—	102
	GILTS	—	38
	SCHATZ	—	726
	T-ULTRA	44	—
	ULTRA (10YEAR)	—	115

\*単位未満は切り捨て。

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

### ○投資信託財産の構成

(2021年11月18日現在)

項目	当期		期末
	評価額	比率	
公社債	千円	%	
	1,396,468	85.9	
コール・ローン等、その他	228,658	14.1	
投資信託財産総額	1,625,126	100.0	

\*金額の単位未満は切り捨て。

\*当期末における外貨建純資産（1,224,484千円）の投資信託財産総額（1,625,126千円）に対する比率は75.3%です。

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=114.18円、1カナダドル=90.54円、1英ポンド=154.03円、1スウェーデンクローナ=12.89円、1ユーロ=129.29円、1ズロチ=27.7392円、1シンガポールドル=84.20円、1リンギ=27.3455円、1豪ドル=82.91円、1新シエケル=37.1175円、1メキシコペソ=5.5232円。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年11月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,477,906,635
コール・ローン等	166,847,198
公社債(評価額)	1,396,468,401
未収入金	872,904,787
未収利息	4,561,533
前払費用	958,166
差入委託証拠金	36,166,550
(B) 負債	863,336,679
未払金	863,336,548
未払利息	131
(C) 純資産総額(A-B)	1,614,569,956
元本	909,507,606
次期繰越損益金	705,062,350
(D) 受益権総口数	909,507,606口
1万口当たり基準価額(C/D)	17,752円

(注) 期首元本額は1,284,198,128円、期中追加設定元本額は563,540円、期中一部解約元本額は375,254,062円、1口当たり純資産額は1,7752円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額・オールウェザー・ファクターアロケーションオープン投信(通格機関投資家専用) 909,507,606円

## ○損益の状況 (2020年11月19日～2021年11月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	31,130,500
受取利息	31,236,749
支払利息	△ 106,249
(B) 有価証券売買損益	42,635,997
売買益	224,749,364
売買損	△182,113,367
(C) 先物取引等取引損益	16,004,707
取引益	67,470,172
取引損	△ 51,465,465
(D) 保管費用等	△ 458,692
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	89,312,512
(F) 前期繰越損益金	910,162,031
(G) 追加信託差損益金	436,460
(H) 解約差損益金	△294,848,653
(I) 計(E+F+G+H)	705,062,350
次期繰越損益金(I)	705,062,350

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## ○お知らせ

該当事項はございません。